

第4回飛騨高山SDGsパートナーシップセンター 会議録（要旨）

日 時：令和7年7月7日（月） 10時00分～12時00分

場 所：高山市役所 4階 特別会議室

出席者：飛騨高山SDGsパートナーシップセンター委員 9名、
高山市SDGs推進アドバイザー 1名、オブザーバー 1名（オンライン）
高山市総合政策部長、総合政策課長、総合政策係長、総合政策課担当、
環境政策課長*、森林政策課長*

※意見交換会から出席

会議内容（次第）

1. 開会（清水副市長あいさつ）

2. センター長あいさつ

3. 報告事項

(1)飛騨高山SDGsアクションデイズイベント等について

資料に基づき事務局が説明

細田センター長

・アクションデイズはどこで開催したのか。

事務局

・主催者から応募があった10月～12月の市内各地域のイベントを対象とした。

藤原委員

・応募があったイベントや出展者は他にあったか。

事務局

・応募いただいたところはすべてをアクションデイズの対象とした。

藤原委員

・今年も同じように募集するのか。

事務局

- ・ 昨年は時間がなく主催者、出展者を同時に募集したが、今年度はイベントを先に固め、その後出展者を募集する予定である。

山本委員

- ・ 大八まちづくり協議会が主催した大八 SDGs フェアをアクションデイズの対象イベントにいただき、6 団体がアクションデイズの SDGs ブースとして出展していただいた。
- ・ 普段つながりのない事業者とつながることができた。そのフェアの中で東山中学校とはフードドライブ活動を一緒に実施し、その後中学校主体でフードドライブ活動を実施。本フェアをきっかけにアウトカムとして活動が広がった。
- ・ 我々のイベントを通して出展事業者の新たな自主活動につながったことがよかった。

細田センター長

- ・ 参加者の年齢層はどのようであったか。

山本委員

- ・ こどもから高齢者まで広い世代の方に参加いただいた。

林委員

- ・ SDGs はどの年齢の方が熱心なのか。逆に興味がない年齢層は。
- ・ 市として今後どの層をターゲットに発信するのか。

事務局

- ・ 小学生、中学生の出前講座として SDGs を学びたいという依頼が多い。たまに事業者がある。
- ・ SDGs アクションデイズは幅広く参加を求めており、あまりターゲットは設けていない。

細田センター長

- ・ SDGs は各世代によって受け取り方、取り組み方が違うと思う。

長瀬委員

- ・ 一昨年に支所地域まで広めてほしいとの意見を踏まえてアクションデイズを展開いただきありがたい。
- ・ 毎年ターゲットを絞り、テーマを決めて向かった方が広がりやすいと考える。
- ・ 市民に気づかせることがメインである。

・岐阜県のSDGs推進に携わっている。学校への講師に招かれたが、学校によって認識度が異なる。特に小学校は認識が高く、気候変動などに危機感を持っている。今やらなければならないテーマに向かって取り組むべきである。

関アドバイザー

・アクションデイズのプログラムについて、市民や団体の参加希望が多いことに驚いている。
・イベント内でつながりができていることも評価できる。
・参加がゴールでなく、行動することが目的である。今後は市、教育委員会、経済団体が協力し、政策につなげる必要がある。

事務局

・SDGs啓発をメインに行った。今後は政策に結び付けなければならないと考えている。事業部局がその視点を持ち政策につなげたいと考えている。

関アドバイザー

・アクションデイズを通して、来年度予算編成にあたり具体的な施策が必要ではないか。

事務局

・政策への組み立てについては、今回のアクションデイズは市民、市内団体へのSDGsの認知、行動促進を目的とした。今後、政策に結び付けたい。

関アドバイザー

・ごみ削減など、観光都市ならではの具体的な取り組みが必要である。包装紙削減や環境にやさしい石鹸・シャンプーの変更などのアクションを起こしてほしい。

事務局

・第1期計画はSDGsの啓発がメインであった。第九次総合計画にはSDGsの考えを盛り込んでいる。ごみ削減など個別な取り組みは実施している。第2期に入ったところで進捗の整理・分析が必要と考える。

細田センター長

・メリハリのある動きが必要である。アクションプランを作成し、具体的な政策を市民に発信できると良い。

(2)飛騨高山SDGs 未来都市計画の進捗評価について

資料に基づき事務局が説明

細田センター長

- ・この進捗評価はどういった指標なのか。「私なりのSDGs宣言」制度の参加者とのつながりはあるのか。

事務局

- ・行政の実施状況であり、市の事業の取り組みのベースとなる指標である。

細田センター長

- ・市民と市の取り組みが別々になっている。市民のアクションにつながるプランが必要と考える。

関アドバイザー

- ・SDGs推進のキーワードは観光、林業、担い手不足の3つが課題である。この3つが重なった総合的政策が必要である。
- ・啓発から実行に移す時期であり、この会議で良いアイデアが出ることを期待する。
- ・国では地方創生に関する予算が増額。二地域居住促進事業に取り組む自治体への支援も強化される。課題解決に向けた戦略が必要である。

藤原委員

- ・観光コンベンション協会はDMOとして活動している。「日常が宝物」を掲げ、自然・文化・環境の3本柱をビジョンにしている。
- ・市はグリーン・デスティネーションズのシルバーアワードを受賞し、来年はゴールドを目指す。
- ・今年度はアクションプランを作成し、市民に示し、市全体で取り組む。地域と協働しマナー啓発も進める。

六角委員

- ・産学官金補助事業で家具メーカーの端材を利用しペンケースを製作した。
- ・自分たちの活動がSDGsにつながっていることを気づいていない人が多い。
- ・支所地域には山本委員のような指導者が不足。市民同士、企業同士で支援できる仕組みも必要。

細田センター長

- ・SDGs 関連の取り組みをタグ付けして評価できるように指標を見直してはどうか考える。

山本委員

- ・学校と地域をつなぐコーディネーターが活動しやすい環境整備が必要。
- ・登録制度を作って活用しやすくする方法があるとよい。
- ・市内団体の講座参加者数も評価に含めれば現状より良い評価になると思う。

細田センター長

- ・市民・事業・行政の取り組みをつなぐ「情報共有の仕組み」や「接点」が見えていない。こうした仕組みがあれば、実際に進捗している取り組みや、進んでいない課題が明確になると考える。

(3)高山市第九次総合計画について

資料に基づき事務局が説明

細田センター長

- ・具体的に関係人口の取り組みは何か。

六角委員

- ・大学活動の誘致・支援事業で大学生が延べ 5800 泊して市内で活動している。
- ・リーダーになりたい学生中心にインカレサークルをつくり、飛騨で取り組む予定である。

藤原委員

- ・飛騨高山高校と協働で観光客へのアンケート調査を実施予定。
- ・市民や観光に関わりのない人も含めて調査する。

関アドバイザー

- ・民間の活動が活発であり、これを SDGs 未来都市指標に反映すべき。
- ・働き方や住居環境改善など「人への投資」が必要である。給与改善や女性キャリアアップも重要である。
- ・人材流出の根本要因を行政が分析し、政策につなげる必要がある。

尾上委員

- ・市は商工会議所をもっと活用してほしい。
- ・自社では女性幹部比率が高く、売上・退職率が改善中である。要因分析を進めている。

白田委員

- ・中山中学校との SDGs フィールドワークで中学生と交流できた。
- ・障がい者が旅行したいとき「高山市」が検索で上位に出るようになると良い。

4. 意見交換

山本委員

- ・SDGs の活動を通してつながった団体の活動をストックし、学校との連携につなげている。
- ・男女共同参画事業や地域ラボなどで小規模ながら関係人口拡大に取り組んでいる。

細田センター長

- ・このような共創の取り組みが不可欠である。

長瀬委員

- ・観光客はあくまでお客様で、市民が豊かに暮らせることが重要。
- ・木材生産業だけでなく、生物多様性に基づく付加価値を考えるべきである。

林委員

- ・現在の SDGs 取り組みを市民と共有し、高山市ならではの差別化につなげる必要がある。

六角委員

- ・都市像は SDGs などのテーマごとに異なる見方をしてもよいと考える。
- ・隣接する一之宮地域では宿泊業が減少しており、民宿の一部は外国人従業員の住宅として利用されている。このような現状を踏まえ、地域ごとの特徴を PR してはどうか。
- ・市の都市像を地域ごとに変えていくことも有効だと考える。

藤原委員

- ・観光ビジョン策定前に市民調査を行い、シビックプライドが高いほど観光客誘致を望む傾向があるとわかった。
- ・地域がしあわせに暮らせるから観光業が成り立っているということを大事にしたい。地域を守るということを観光団体として取り組んでいきたい。

尾上委員

- ・各企業の声を聞いて高山商工会議所をもっと活用してほしい。年齢関係なく若手で活躍したい人を幹部にし取り組んでいる。

白田委員

- ・「女性活躍」という言葉が不要になる社会を目指してほしい。

山本委員

- ・啓発から行動への転換が必要。自然教育旅行なども検討すべき。

関アドバイザー

- ・SDGs 未来都市の第2期計画でKPI達成に向けた議論をすべき。国からの支援を活用して予算確保に向けて検討してほしい。
- ・高山市は国の補助を活用し、思い切った事業を実施すべきと考える。

細田センター長

- ・具体的なアクションプランを示し、次回会議で議論したい。

5. 閉会